

## アメリカ西部の旅

— 藤井 諭 —

9月5日から15日まで11日間、個人旅行でアメリカ西部の旅をした。その主目的は専門分野の調査のためサンフランシスコ近郊とロサンゼルスのある有名大学を視察することであったが、もうひとつは世界自然遺産のヨセミテ国立公園とグランドキャニオン国立公園を探索することであった。この記事では後者の探索したことについて述べる。

今回は全ての予約を旅行社は通さずインターネットで行なった。特に国立公園内のホテルはすぐ満室となるため、1年前から予約しておいた。バス、鉄道、レンタカーと言った交通機関の予約には不安もあったが出発した。

サンフランシスコからシエラネバダ山脈にあるヨセミテ国立公園までは、路線バスで移動した。時間通りにバスが来るかどうか不安なところがあったが、マーセド経由

の乗り継ぎ3回で、何とか無事にヨセミテロッジに着くことができた。さっそく溪谷の上流に向かって遊歩道を歩いてみる。森を過ぎて広い湿原に出ると、正面にヨセミテのシンボルであるハーフドームが聳えて見え、憧れのヨセミテに来たことを実感する。溪流の橋には多くの観光客が集まり、どことなく河童橋みたいだ。ヨセミテ溪谷は上高地に似た溪谷であるが、広さはその数倍も広くまた周囲が高度差1000mに及ぶ大岸壁で囲まれているところが違う。明日



登る予定のグレイシャー・ポイントを見上げると首が痛くなる。スーザのマーチで有名なエル・キャピタンは溪谷の入口で仰ぐことができるが、その高さは驚異的だった。溪谷を流れるマーセド川の清流は澄み、湿原では野生の鹿であるエミューが草を飲み遊んでいた。

翌日はホテルで予約したツアーバスでトンネルを越えて南に周り、裏側からグレイシャー・ポイントに登った。駐車場から歩いて10分、岩場の淵から突然現れたヨセミテ溪谷の大展望に歓声。右からハーフドーム、バスケットドーム、ノースドーム、ヨセミテフォール、イーグルピークそしてエル・キャピタン。下にはヨセミテ溪谷の緑と、その間を蛇行して流れるマーセド川が美しい。これらは2億年前に氷河が削って出来た自然の造形と言われており、大自然のその力強さに驚嘆した。今年の3月に大山でMHCと合同登山をした奥多摩山岳会は、昨年8月に1週間かけてハーフドームやエル・キャピタンの岩場を登っており（MCレポートNo.255）、彼らの挑戦には改めて敬意を表したい。

グレイシャー・ポイントを南に下って訪れたのが、巨木の森のマリポサ・グローブ。ここには世界最大の樹木と言われるジャイアント・セコイアが群生していた。独特のオレンジ色の樹皮で根元の周囲が30mもあり、樹齢は2700年もあるという。公園のシャトルを使って森の中を移動するが、巨木がこれでもかとばかりに次々に現れ、日本の屋久島とは規模が違うことに圧倒された。これぞ世界自然遺産であり、アメリカは国をあげて山火事などから防いで森を後世に残す義務があるとも思った。

当初は一人でヨセミテ・ビレッジからフォーマイル・トレイルをグレイシャー・ポイントまで登山をする予定だった。ヨセミテロッジの近くからヨセミテフォール上部

に登るアッパーヨセミテフォール・トレイルも興味深い。今回は家族同伴のため登らなかったが、いずれも日帰りコースであり次に行かれる方にはお勧めしたい。

次はヨセミテ国立公園からバスでマーセドの町に戻り、ここから鉄道のAMTRAKでロサンゼルスに向かった。

AMTRAKは是非乗ってみたかった2階建ての高速鉄道で、車窓からのカリフォルニアの眺めは日本では体験できないものだった。地平線まで広大な



な平野が続き、一面にトウモロコシ畑、大豆畑やブドウ畑が広がる。農業はアメリカの基幹産業のひとつであり、その規模の大きさには圧倒される。AMTRAKはロサンゼルス市街を迂回するため、交通の要所、ベイカーズフィールドでバスに乗り換えて入る。その途中に山岳地帯があり、ラホン峠を越えるが、右にピノス山(2692m)、左にベアー山(2100m)があり、登って見たい山だと思った。山岳に囲まれた日本の地形と異なり、これらの山の周囲はカリフォルニアの広大な平野であり、山頂からの景色はさぞ広大なことであろう。

ロサンゼルスからラスベガスまで飛行機で移動し、ラスベガス空港でレンタカーを借りてグランドキャニオンまで約600kmをドライブした。アメリカでの車の運転は初めてで、右と左が全て逆なため最初は戸惑った(ウィンカーと間違えて突然ワーパーが回りだしたりした)。ラスベガスの街を過ぎると砂漠地帯となり、突然にフーバードムのあるミード湖がオアシスのように青い水を湛えて見えた。砂漠都市のラスベガスはこの水を引いて作られている。ネバダの砂漠を走る高速道路93号線は真っ直ぐに伸びて地平線に消えている。日本では見ることのできない広大な風景を、快適に制限速度75マイル(120km)で走った。左手遠方にティプトン山(2197m)が聳え、やっと見えた町のキングマンからは40号線に入る。この高速道路は西部開拓史で有名なルート66にあたり、ここからはアリゾナの平原をひたすら西へウィリアムズに向かって走る。高速道路は街に入ると制限速度の標識が35マイル、15マイルと変わり、アメリカ人は速度を良く守っていた(違反チェックが厳しいらしい)。

運転すること6時間、州道64号線でやっと山岳地帯に入りグランドキャニオンが見えてきた。予約したサンダーバードロッジは、窓から壮大な渓谷が見える素敵な部屋。さっそく夕日を眺めるため、無料シャトルバスで夕日絶景ポイントの“ホピポイント”に向かった。ここは夕日が最も美しい場所とされ、17時半にはすでに多くの観光客でいっぱい。崖の上から見下ろすと谷底に向かって一気に1000m落ちる。2億年に渡り浸食を繰り返して出来た大自然の彫刻が、夕日でバラ色に染まる



場所が刻々と移動して行く。日没は 18 時頃で、たくさんの観光客から歓声と拍手が湧いた。

翌朝は 4 時に起床、4 時半のシャトルバスに乗り、日の出で有名な“マーザポイント”へ。大渓谷の上部から日が当たって赤く染まり、だんだんと下へ移動しながらオレンジ色に変えていく。谷底のコロラド川に陽が入り光りだす。大自然の壮大なショーに、様々な言語の交錯するたくさんの観光客から歓声が上がった。1000m の断崖絶壁ギリギリまで進んでカメラのシャッターを切る人もいた。



当初は谷底のコロラド川までトレッキングするつもりでいたが、今回は家族同伴のためやめたトレッキングルートとしては、サウスリム・ビレッジから下るブライロエンジェル・トレイルとイーストリムから下るサウスカイバブ・トレイルがある。前者が緩やかで一般的であるが、私は後者のほうが短時間で下れて人も少なく展望も良いと思っている。日帰りでもトロントトレイル分岐 (1220m) までは往復 9 時間で可能で、コロラド川を見下ろす絶景ポイントに至ることができる。日差しが強く谷底は暑いので、日よけ対策をして飲料水をしっかり持参の上、是非とも行かれることを勧めたい。

最後に、アメリカは無料の高速道路が網の目のように走り、すべて移動は車が中心なので、山へ行くにはレンタカーの利用を勧めたい。その場合、カーナビとは別に隣に、英語の標識をすばやく読む人間ナビゲーターがいると良い。今回は隣の息子のナビが頼りになった。また、アメリカの航空会社は遅れるのが当たり前のようで、乗り継ぎには十分時間を取っておくこと。今回はユナイテッド航空を利用したが、ラスベガスからサンフランシスコの便が大幅に遅れた（空港で待機中に 3 回も携帯に遅れメールが来た）。結果、サンフランシスコで東京行の JAL に乗り換える時間がたった 30 分となり、乗換で空港内をダッシュで走らされた。体は東京便に乗れたが荷物は積替えが間に合わず、3 日遅れの宅急便で戻ってきた。予定では 3 時間の乗り継ぎ時間だったが、アメリカでは何が起こるかわからないので、十分に余裕を持って計画したほうが良いと思った。（終）